

呼吸器外科専門医修練プログラム

一般目標

国民の福祉に貢献するレベルの高い均質な呼吸器外科診療を実践できる専門医を養成するため、以下の4項目を到達目標として段階的に研修する。研修期間は卒後初期臨床研修ならびに外科専門医研修を含めて7年以上とする。

- 1、呼吸器外科専門医として適切な臨床判断能力と問題解決能力を習得する。
- 2、呼吸器外科手術を適切に実施できる能力を習得する。
- 3、医の倫理、医療安全に基づいた適切な態度と習慣を身につける。
- 4、EBMに基づく生涯学習の方針を習得する。

到達目標1：呼吸器外科専門医として適切な臨床判断能力と問題解決能力を習得する。

- 1) 呼吸器疾患に必要な解剖・生理を理解する。
- 2) 呼吸器疾患の病因、病理病態、疫学に関する知識を身につける。
- 3) 呼吸器疾患に必要な診断法を習得し手術の適応を決定できる
 - ① 胸部単純X線写真、CT、MRI、FDG-PET検査等の読影ができる。
 - ② 血液ガス分析、肺機能検査、肺シンチグラフィーなどの結果を解釈できる。
 - ③ 気管支鏡、胸腔鏡が実施できる。
 - ④ 組織学的診断を理解し、治療方針の決定ができる。
- 4) 呼吸器外科疾患に必要な検査法についてその選択、実施、評価ができる。
 - ① 気管支鏡、胸腔鏡に伴う合併症に対応できる。
 - ② リンパ節生検が施行でき、合併症に対応できる。
 - ③ 胸腔穿刺、胸腔ドレナージが安全確実に施行できる。
- 5) 適切な周術期管理ができる。
 - ① 気管内挿管、分離肺換気、人工呼吸器による呼吸管理ができる。
 - ② 気管切開が安全にできる。
 - ③ 術前後の呼吸リハビリの実施、指導ができる。
 - ④ 術後合併症の予防・早期発見・対処を遅滞なく行える。
 - ⑤ 再開胸の判断ができる。

到達目標2：呼吸器手術を適切に実施できる能力を習得する。

- 1)、経験手術件数 すべての呼吸器外科手術の術者として60例以上呼吸器外科専門医合同員会の専門医申請要綱を参照)、助手を含め100例以上(術者60例のうち、開胸手術20例以上、胸腔鏡下手術20例以上)

到達目標3：医の倫理、医療安全に基づいた適切な態度と習慣を身に付ける。

- 1) 指導医とともに協調によるグループ診療を実践することができる。
- 2) 患者とその関係者に対し適切なインフォームドコンセントを得ることができる。
- 3) 医療安全に関する研修を受ける。

到達目標 4：EBM に基づく生涯学習の方略を習得する。

1)、呼吸器外科関連の学術集会に出席し、研究発表や症例報告を行う。

- ① 全国規模の学会で 5 回以上発表する。
- ② 呼吸器外科学会総会、胸部外科学会定期学術集会に計 5 回以上参加する。
- ③ 日本呼吸器外科学会呼吸器外科セミナー、あるいは胸部外科学会卒後教育セミナーに 2 回以上参加する。医療安全などに関する研修を 2 回以上受ける。
- ④ 日本呼吸器外科学会の認める胸腔鏡セミナー、に 1 回以上参加する。

2)、症例報告や研究論文の執筆能力を養う。3 編以上 但し、筆頭論文 1 編以上を含む
(論文は査読制度のある全国誌以上とする)

取得可能な資格

- 1) 呼吸器外科専門医
- 2) 呼吸器内視鏡専門医 (気管支鏡専門医)

卒後 7 年以上の修練期間を経過した時点で到達目標にしめされた最低手術経験数を充足し、かつ一定以上の業績を示したものは呼吸器外科専門医筆記試験を受験することができる。プログラム終了の認定は呼吸器外科専門医取得をもって終了とする。

研修責任者

呼吸器外科 渡邊健一